

処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること

糖質・電解質補給輸液剤

ペンライブ®注

PENLEIV® INJ.

（5%マルトース加アセテート維持液）

貯 法：室温保存

使用期限：3年

（外箱・容器に表示の使用期限内に使用すること）

注 意：取扱い上の注意の項参照

	ボトル		バッグ
	200mL・300mL	500mL	
承認番号	16300AMZ00295		
薬価収載	1990年7月	1988年7月	2007年7月
販売開始	1990年7月	1988年7月	2007年8月

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

1. 高カリウム血症（乏尿、アジソン病、重症熱傷、高窒素血症等）の患者〔症状が悪化するおそれがある。〕
2. 高リン血症、低カルシウム血症（副甲状腺機能低下症等）の患者〔症状が悪化するおそれがある。〕
3. 高マグネシウム血症（甲状腺機能低下症等）の患者〔症状が悪化するおそれがある。〕

【組成・性状】

1. 組成

容 量		200mL	300mL	500mL
成分・含量 (1瓶中)	日局 塩化ナトリウム	0.29224g	0.43836g	0.7306g
	日局 塩化カリウム	0.1044 g	0.1566 g	0.2610g
	塩化マグネシウム	0.10168g	0.15252g	0.2542g
	リン酸二水素カリウム	0.2722 g	0.4083 g	0.6805g
	日局 酢酸ナトリウム水和物	0.54432g	0.81648g	1.3608g
	日局 マルトース水和物	10.0g	15.0g	25.0g
添加物	pH調整剤	適量	適量	適量

2. 製剤の性状

性 状	無色～微黄色澄明の液で、弱い甘味と塩味がある。
pH	4.3～6.3
浸透圧比	0.9～1.0（生理食塩液に対する比）

電解質組成（mEq/L）						マルトース （g/L）	熱量 （kcal/L）
Na ⁺	K ⁺	Mg ²⁺	Cl ⁻	H ₂ PO ₄ ⁻	CH ₃ COO ⁻		
45	17	5	37	10	20	50	200

【効能・効果】

経口摂取が不能または不十分な場合の水分・電解質の補給・維持、エネルギーの補給

【用法・用量】

通常、成人には1回500～1000mLを徐々に静脈内に点滴注入する。投与速度は通常成人ではマルトースとして1時間あたり0.5g/kg体重以下とする。

なお、年齢、症状に応じて適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1)高カリウム血症を伴わない腎不全のある患者〔酸塩基平衡の異常、電解質異常が起こることがある。〕
- (2)心不全のある患者〔体液量の過剰により心負荷を起すことがある。〕

(3)閉塞性尿路疾患により尿量が減少している患者〔体液量が過剰となることがある。〕

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1)重大な副作用（頻度不明）

アナフィラキシーショック：マルトース含有製剤ではアナフィラキシーショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い、呼吸困難、血圧低下、頻脈、蕁麻疹、潮紅等の症状が認められた場合には投与を直ちに中止し、適切な処置を行うこと。

(2)その他の副作用（頻度不明）

- 1) 過敏症：発疹、掻痒感等の過敏症状があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
- 2) 大量・急速投与：脳浮腫、肺水腫、末梢の浮腫、水中毒、高カリウム血症があらわれることがある。

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているため、投与速度を緩徐にし、減量するなど注意すること。

4. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。（使用経験が少ない。）

5. 臨床検査値に及ぼす影響

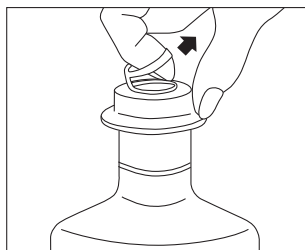
グルコース脱水素酵素（GDH）法を用いた血糖測定法ではマルトースが測定結果に影響を与え、実際の血糖値よりも高値を示す場合があることが報告されている。インスリン投与が必要な患者においては、インスリンの過量投与につながり低血糖を来すおそれがあるので、本剤を投与されている患者の血糖値の測定には、マルトースの影響を受ける旨の記載がある血糖測定用試薬及び測定器は使用しないこと。¹⁾

6. 適用上の注意

- (1)調 製 時：カルシウムイオンと沈殿を生じるので、カルシウムを含む製剤と配合しないこと。
- (2)投 与 前：
 - 1) 本剤を投与する場合は患者の尿量が1日500mLまたは1時間当たり20mL以上あることが望ましい。
 - 2) 投与に際しては、感染に対する配慮をすること。（患者の皮膚や器具消毒）
 - 3) 寒冷期には体温程度に温めて使用すること。
 - 4) 開封後は直ちに使用し、残液は決して使用しないこと。
- (3)投 与 時：ゆっくり静脈内に投与すること。

【取扱い上の注意】

1. 連結管による混合投与の場合は、Y字管連結にして使用すること。
2. 開栓時の注意：
 - (1)プラスチックボトルの場合
 - 1) プルオフリングの支柱部が向こう側になるようにボトルを保持する。
 - 2) プルオフリングの上から人差し指を入れ、リングに指をかける。



- 3) 親指で支え、手前方向へ約45度にゆっくり引くと開栓できる。
 - (2)ソフトバッグの場合
 - 1) 排出口をシールしているフィルムがはがれている場合は使用しないこと。
 - 2) 通気針は不要である。
3. 包装内に水滴が認められるものや内容液が着色または混濁しているものは使用しないこと。
4. 混注の際は注射針をゴム栓の○印にまっすぐ刺すこと。
5. 容器の目盛はおよその目安として使用すること。
6. **安定性試験**：最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度75%、6ヵ月）の結果、ペンライブ注は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された²⁾。

【包 装】

- 200mL：20瓶（プラスチックボトル）
20袋（ソフトバッグ）
- 300mL：20瓶（プラスチックボトル）
20袋（ソフトバッグ）
- 500mL：20瓶（プラスチックボトル）
20袋（ソフトバッグ）

*プラスチックボトルはポリプロピレン製容器、ソフトバッグはポリエチレン製容器である。

※【主要文献】

- 1) 佐野俊一，他：プラクティス，21，1，91-96（2004）
- 2) 社内資料（安定性試験資料）

※※【文献請求先】

「主要文献」に記載の社内資料につきましても下記にご請求ください。

ファイザー株式会社 製品情報センター
〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7
学術情報ダイヤル 0120-664-467
FAX 03-3379-3053

® 登録商標



※製造販売元
マイラン製薬株式会社
大阪市中央区本町2丁目6番8号

※※販売
ファイザー株式会社
東京都渋谷区代々木3-22-7

